

(様式 1)

横浜市川島町公園こどもログハウス 指定管理者事業計画書

(22 年度)

団体名	保土ヶ谷区区民利用施設協会		
代表者	会長 橋本 淳	団体設立年月日	平成 7 年 4 月 1 日
団体所在地	横浜市保土ヶ谷区西谷町 747-8-102		
連絡先	Tel 045-370-5231 Fax 045-370-5230		
現在運営している施設名	施設種別	施設所在地	運営期間
横浜市 ほどがや地区センター	地区センター	保土ヶ谷区天王町 1-21	始平成 7 年 4 月 1 日 至平成 23 年 3 月 31 日
横浜市 西谷地区センター	地区センター	保土ヶ谷区西谷町 918	始平成 7 年 4 月 1 日 至平成 23 年 3 月 31 日
横浜市 初音が丘地区センター	地区センター	保土ヶ谷区藤塚町 15-1	始平成 7 年 4 月 1 日 至平成 23 年 3 月 31 日
横浜市 桜ヶ丘コミュニティハウス	コミュニティハウス	保土ヶ谷区岩崎町 15-30	始平成 11 年 5 月 15 日 至平成 23 年 3 月 31 日
横浜市 峯小学校コミュニティハウス	コミュニティハウス	保土ヶ谷区峰岡町 1-10	始平成 7 年 4 月 1 日 至平成 23 年 3 月 31 日
横浜市 笹山小学校コミュニティハウス	コミュニティハウス	保土ヶ谷区上菅田町 1422	始平成 7 年 4 月 1 日 至平成 23 年 3 月 31 日
横浜市 くぬぎ台小学校コミュニティハウス	コミュニティハウス	保土ヶ谷区川島町 1374-1	始平成 17 年 5 月 15 日 至平成 23 年 3 月 31 日
横浜市 瀬戸ヶ谷スポーツ会館	スポーツ会館	保土ヶ谷区瀬戸ヶ谷町 71	始平成 7 年 4 月 1 日 至平成 23 年 3 月 31 日
横浜市 川島町公園こどもログハウス	ログハウス	保土ヶ谷区川島町 825-1	始平成 7 年 4 月 1 日 至平成 23 年 3 月 31 日

1 申請団体に関すること

- (1) 団体の経営方針について
- (2) 団体の事業（活動）実績について

(1) 保土ヶ谷区区民利用施設協会の経営方針について

- ア 区民のニーズに応え、公共的かつ公平性を担保した区民利用施設の管理運営を行うこと
- イ 区民の自主的な活動の支援を通じて、区民を主体とした活力とふれあいのある快適な地域コミュニティの醸成に寄与すること
- ウ 効率的かつ効果的な区民利用施設の運営を行うこと
- エ 公の施設の管理運営の実績を生かし安定した経営に努めること

(2) 保土ヶ谷区区民利用施設協会の事業実績(活動実績)について

保土ヶ谷区区民利用施設協会は、平成7年4月1日に地区センター3館・コミュニティハウス2館・こどもログハウス及びスポーツ会館の合計7館で運営を開始し、その後コミュニティハウス2館（既設施設転用型1館・学校施設活用型1館）を加え、現在は9館の運営管理を実施しています。

この間、地域に密着した運営に努め、利用者の拡大に努めてまいりました。

また、自主事業につきましても、利用者のニーズを取り入れた講座等を実施するなど取り組んできました。

※ A4版1枚以内でまとめるよう、お願ひいたします。

2 こどもログハウスの管理運営に関する基本方針について

- (1) 施設の設置目的を踏まえた運営方針
- (2) 施設が設置される地域における関わりや取組方針

こどもログハウスは、「こども同士の遊びを通じ、青少年の健全育成を育むことのできる場」という設置理念に基づき次のような運営を行います。

- (1) ログハウスは、異年齢の子どもたちが常時集い、遊びを通して創造性や協調性を養うことができる公共の施設です。子どもにとっては友達と新しい遊びの発見の場所とし、親子にはコミュニケーション・スキンシップの再認識ができる場所とします。放課後の児童が安心して過ごせるよう、みんなが平等に楽しく利用できるように管理運営に努めて行きます。
- (2) 地域の方々が、コンサートなどの開催場所として施設を利用し、施設側も協力をしています。また、隣接している川島保育園から広報物をいただき、地元西谷中学校から学校通信をいただき、館内に掲示して地域の掲示板として活用しています。

幼稚園、保育園、小学校、学童保育では施設を毎年の遠足や遊びの場として活用し、学校では体験できない遊びや遊具を楽しんでもらい、子どもたちにも先生方にも大変喜ばれています。

子育てをしているグループも自主的に活動のため施設を利用しています。親子で楽しく遊んだ後、ベランダでお弁当を広げ、とても和やかで楽しい雰囲気の場面もしばしば見受けられ、子育ての拠点として定着しています。

一般の方、団体の方々が平等に気持ちよく施設を利用できることを基本に、引率者や子どもたちへ利用のアドバイスを行っています。

運営委員会を開催するとほとんどの方が出席され、いじめ、怪我、遊具の安全性等に関する質問をされます。学校の先生、PTA、子ども会、保護司、地元自治会の代表者が気持ちを一つに「地域でしっかりと子育てをしよう」とログハウスを温かく見守ってくださっていることの現われだと思っています。私たちはそれにお応えできるような管理運営に取り組んでいます。

20年度からは、隣接している川島保育園と協働して、「保育園児と遊ぼう」を自主事業で開催し、地域の未就園児と保護者を対象に、園の保育士と園児が遊びを通じて、交流を図っています。

※ A4版1枚内でまとめるよう、お願ひいたします。

3 区の特徴・区政運営方針等の理解と運営方針への反映について

区政運営方針では地域全体で展開する『子育て・青少年健全育成への支援』をかけています。川島町公園こどもログハウスを『子育て・青少年健全育成への支援の場』と位置づけ、それを具現化するために「地域で子育て」を目標にさらに活性化していきたいと思っています。

- 1 放課後児童の心地よい居場所となるようにする
- 2 区子連のジュニアリーダーの活用でプレイリーダーの養成
- 3 子育てはまず親支援、子育てママたちがみんなで協力して何かをやり遂げることができるイベント企画

少子化・核家族化の進行や社会の急速な変化に対応するために

保土ヶ谷区の人口動態によると、15歳未満の子どもたちは年毎に減少しています。兄弟姉妹・友人のとの関わりが薄く、切磋琢磨の機会に恵まれません。さらに親の過干渉により自主性が損なわれるのも問題です。これらの現代的な子どもたちの成長、環境をふまえながら、公共の遊び場施設として、地域の町内会、幼稚園、保育園、学校関係と連携して社会全体で子どもと子育てをしている親に関わることが大切です。

ログハウスは異年齢の子どもたちが集い、スタッフや大人たちが大きな子には小さな子への対応を教え、遊びながら人との関わり方を学べる場でもあります。ログハウスで遊びをとおして子どもたちに「たくましく生きる力」を育んでいます。

小学校などでも児童数減少の傾向は強く、いろいろな人や機会に接する場面を増やすような活動に、施設を提供するなど協力しています。

各団体や近隣の区民利用施設、地域の方々と連携し、この施設が子どもたちを育み、子どもたちにとって、楽しい場所になるよう施設の運営に努めてまいります。

※ A4版1枚内でまとめるよう、お願ひいたします。

4 地域及び利用者ニーズの把握と運営への反映について

(1) 地域及び利用者ニーズの把握方法について

(2) (1)で把握したニーズの運営への反映の仕方について

(1) 地域及び利用者ニーズの把握方法について

利用者のほとんどが小学生と幼児であるため、利用者本人のニーズを把握しにくいところはありますが、小学生へは定期的にアンケートを実施し、また幼児同伴の母親からはスタッフが直接要望等について把握しています。

また、運営委員会の存在は重要で、地元町内会、学校関係者、各種団体などの方からは、幅広い地域のニーズを得ることが出来ます。

職員も地域在住であり、子育て中のスタッフは学校や地域の子どもたちの情報を数多く持っているので活用しています。

スタッフの明るいあいさつから始まる人と人の関わり、誠意ある姿勢が利用者とのコミュニケーションを深めていきます。そしていろいろな話題からこんなものがあったら、こんなことしてもらえたたらというニーズが出てきます。提案箱を設置して、いつでも誰でもニーズが書きこめ、投書出来るようにしています

(2) (1)で把握したニーズの運営への反映の仕方について

提案箱の内容は、できることから迅速に対応して、利用者にもそのニーズや対応状況をログハウスだよりを通じて伝えてまいります。

施設整備や運営の根幹に係わることなどは、区役所、保土ヶ谷土木事務所などと連携をとりながら改善・管理運営してまいります。

※ A4版1枚以内でまとめるよう、お願ひいたします。

5 利用者へサービス提供に対する考え方

- (1) すべての利用者への公平なサービス提供について
- (2) 利用者の立場に立ったサービス提供及び情報提供について
- (3) 苦情処理対策について

(1) すべての利用者への公平なサービス提供について

ログハウスを日常利用する子どもは近隣に居住しています。そのため親子共々特定の人たちと親しくなる傾向がありますが、スタッフ一同利用する方々に誠意を持ち、平等に接することを基本としています。また、いつも施設内を安全に楽しく利用できるように施設内点検、遊具点検（チェックシートによる）を実施し、みんなが気持ちよく使えるようにアドバイスすることも利用者への公平なサービス提供と考えます。

(2) 利用者の立場に立ったサービス提供及び情報提供について

利用したいときに気軽に利用できることが大切なことだと思います。「今日開館していますか？場所はどこですか？」という電話対応から場所確認の地図の提供、イベント予定の情報提供など、ログハウスだよりやホームページを通じて、広く提供することにより多くの利用者が訪れています。また、イベント情報等については、広報などがや区版、区ホームページに掲載していただくほか、Y C Vを活用しています。

年4回ログハウスだよりであるアドベンチャー通信を発行し、学校や地域などに配布しています。ログハウス内にもいろいろな掲示物を貼りますが、イラストなどで工夫し、子どもたちに理解できるよう作成しています。

(3) 苦情処理対策について

直接寄せられる苦情は、スタッフひとりひとりが迅速に対応するように常に心がけています。スタッフ同士の判断により、協会対応が必要な場合は素早く連携を取り、スタッフ全員が徹底すべき内容などは連絡ノートを通じて、確認しあっています。

※ A4版1枚内でまとめるよう、お願ひいたします。

6 自主事業の提案について

(1) 自主事業計画に関する基本方針

※ 具体的な計画については、様式2及び様式3に記載すること

- 1 子どもたちが主体的に事業に参加し、仲間と遊ぶ楽しさを体験する。
- 2 遊びをとおして、他の人格を認め、やさしさが育まれるようにする。
- 3 子育てに関する情報交換の場となるようにする。

子どもが主体的であること

来館者アンケート結果を基本に、子どもの視点に立った事業を計画しています。地域の大人たちに見守られながら、子どもたちが主体的に事業に参加し、達成感や仲間と遊ぶ楽しさを体験しています。

子どもの自発的な興味を引き出す事業

子どものプレイリーダー「遊び(事業)のお手伝いさん」育成。

事業実施の際、「こんなことができたらいいな」など子どもたちからアドバイスをしてもらい、そのお手伝いもしてもらう。

学校では目立たない子どもが、ログハウスでは生き生きリーダーシップをとる。子どもだからできる遊びや友達との交わりのなかで、人間として生き抜いていく知恵と力が自然と備わって行くことだと思います。

子どもの遊びは人間関係をつくる基本であり、遊びをとおして他の人格を認め、やさしさが育まれるような事業を展開しています。

子育て支援・親子サークルの支援

乳幼児向けの自主事業を充実させ、乳幼児とその親がいっしょに遊びながら子育てについての悩みや疑問を気軽に話せるような場を設けます。事業をとおして、孤立して子育てをしている親を一人でも無くしたいと願っています。ログハウスを安心・安全な子どもの遊び場として、また、親同士の交流・子育て情報交換の場としています。

20年度からは、隣接している川島保育園と協働して、「保育園児と遊ぼう」を自主事業で、月1回開催し、地域の未就園児と保護者が、園の保育士・園児と遊びを通じて交流しています。

※ A4版1枚内でまとめるよう、お願ひいたします。

7 管理経費に関する考え方

(1) 効率的な管理運営のための具体的な計画について

(2) 経費節減のための工夫について

(1) 効率的な管理運営のための具体的な計画について

ア 施設管理・経理等を、当区民施設協会が運営している他の施設と一体的に行うことにより効率的かつ管理費の縮減を図り、サービスの低下を招かず、利用しやすい施設を目指します。

イ 施設を安定的に管理するために、永年培った経験により競争性の導入やスケールメリットを生かし、総合力のある施設管理業者に委託することにより、利用しやすい施設サービスを図ります。

(2) 経費節減のための工夫について

ア 通信費（郵送料）の節約

- ・ ログハウスだよりの各区のログハウスに郵送していましたが、ファックスを活用して郵送料の縮減を図っています。
- ・ また、電話料金の節約のためメールを活用します。

イ 事業費の工夫

- ・ 事業企画のさい、ほどがや市民活動センターアワーズを活用しています。
- ・ イベントにはパートナーシップ事業で築いた人脈を活かし、横浜国大生のボランティア協力を引き続きお願いします。
- ・ イベントの工作物などは、家庭で不用となったペットボトルやダンボールを使用します。

※ A4版1枚以内でまとめるよう、お願ひいたします。

8 施設運営に関する職員体制及び職員育成の考え方について

(1) 職員の配置及び採用について

(2) 職員の研修計画について

(1) 職員の配置及び採用について

子どもの遊びを見守り、各自の興味や関心を誘引できる職員、そして子どもや親の相談相手になり、適切なアドバイスができる職員が常駐していることが望ましいと思います。そのためには豊富な知識を持っていることも必要ですが、研修によりその専門性を習得することもできます。

【職員の配置】

午前：2名

午後：2名

【職員の勤務体制】

12名のローテーション勤務とする

【採用条件】

近隣の地域に居住していること

可能な限り専門性を身につけていること

(2) 職員の研修計画について

利用者ニーズが多様化してきており、ニーズに適切に対応するためには、スタッフ個々の能力向上はもちろんのこと、利用者サービスに徹するログハウスの運営が求められます。

そこで、協会では次のような研修を実施しています。

- ・ 新規雇用者に対する採用時接遇研修
- ・ スタッフ研修資料に基づく採用時接遇研修
- ・ 保土ヶ谷区区民利用施設協会主催の全体研修への参加
- ・ 他区区民利用施設協会主催の「ログハウス新任スタッフ研修」への参加
- ・ 子どものあそびや子どもに関する学びの場の情報提供

※ A4版1枚内でまとめるよう、お願ひいたします。

9 個人情報の保護について

(1) 個人情報保護に関する措置

(1) 個人情報保護に関する措置

個人情報の保護に関する法律、条例はもちろん、こどもログハウス指定管理者募集要項の中で示された、「個人情報保護取扱特記事項」を厳しく守っています。

日常の利用時に氏名、住所、学年、電話番号を受付簿に記入してもらっています。これは来館した子どもの緊急時の連絡と横浜市へ提出する統計の資料のためであって、情報の収集は必要最低限に留めます。それ以外に個人情報を扱うことはありません。

個人情報の保護については、次により取り扱います。

- ア 受付簿については、取扱に注意し、保管は鍵のついた書庫で行い、シュレッダーにかけて廃棄します。
- イ 不必要な個人情報を新たに収集しません。
- ウ 第三者に個人情報を提供しないことを徹底します。
- エ 個人情報は施設利用者の資産であることの意識を徹底し、情報、データーの取り扱いについて、一人ひとりの意識を改革します。
- オ ホームページに写真を載せるときは本人の了解をとります。

※ A4版1枚以内でまとめるよう、お願ひいたします。

10 緊急時対応（危機管理のあり方）について

- (1) 防犯、防災、その他緊急時の対応について
- (2) 利用児童等の安全管理について

(1) 防犯、防災、その他緊急時の対応について

- ア 今までの記録確認やそれぞれの経験による情報提供、常日頃からの心構え等の確認をスタッフ一同で話し合っています。事故怪我の応急処置の研修により、より専門的な知識を習得し対応を学びます。
- イ 災害時の利用者への安全についても職員一同話し合いお互いに確認しています。災害時の場合ログハウス災害時マニュアルに基づいて対応します。
- ウ ログハウスは施設の規模が小さく、消防法に定められた消防計画書の提出は義務付けられていませんが、不特定多数の人たちが多数出入りするため、任意で届け出をしています。
- エ 火災、不法侵入の発生警戒のため機械警備を委託していますが、日中不測の事態に備え非常通報システムにより、安全を確保しています。

(2) 利用児童等の安全管理について

- ア 子どもが怪我をしたさいは、スタッフが迅速な対応実施しています。子どもの遊び場のため、怪我は避けられないし、保険加入は施設を運営していく上で必要不可欠なものです。子どもたちに安心して施設を利用してもらうために、施設賠償責任保険及びレジャー・サービス施設費用保険に加入しています。
- イ 利用者の安全確保のため、地下迷路の監視カメラを受付で確認しています。また、午前2回、午後2回、巡検と称して、館内（トイレの中、子どもエレベータ、地下迷路、外周など）をスタッフが確認のため巡回しています。

※ A4版1枚以内でまとめるよう、お願ひいたします。

様式 2

平成 22 年度 横浜市川島町公園こどもログハウス 自主事業計画書

団体名 保土ヶ谷区区民利用施設協会

事業名	対象	自主事業予算額					
		総経費	収入		支出		
			委託料	その他	材料費	その他	
① まどにお絵かき (全4回)	幼児～中学生	5,000	5,000	0	5,000	0	
② おはなし会 (全9回)	幼児	2,222	2,222	0	0	2,222	
③ かるがもキッズタイム(全5回)	幼児	2,222	2,222	0	0	2,222	
④ 保育園児と遊ぼう !(全10回)	幼児	0	0	0	0	0	
⑤ ムシ博士のかぶと虫教室(全2回)	幼児～中学生	19,110	19,110	0	8,000	11,110	
⑥ 親子リトミック教室 (全1回)	幼児と保護者	5,555	5,555	0	0	5,555	
⑦ プレイデー (全4回)	幼児～中学生	91,110	91,110	0	80,000	11,110	
事務費		781	781	0	0	781	
合計		126,000	126,000	0	93,000	33,000	

事業ごとに内容を様式 3 に記載してください。

様式 3

平成 22 年度 横浜市川島町公園こどもログハウス 自主事業別計画書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
①まどに おえかき	ログハウスの大きな窓ガラスへ、各回ごとのテーマに沿って、こどもたちが自由にのびのびと絵を描きます。	土曜日 (全 4 回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
②おはなし会	読み聞かせボランティアグループ「茶々～ちやちや～」による幼児対象のおはなし会。 絵本の読み聞かせは、聞く力を育て、言葉からイメージする力を育てます。本(おはなし)に対する興味がわき、こどもの心に楽しい創造の世界を広げます。	火曜日 (全 9 回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
③かるがもキッズタイム	未就園児と保護者を対象に、親子と幼児のふれあい遊びを楽しみます。同じ年頃の幼児を持つ、親同士の交流の場、情報交換の場を提供します。	金曜日 (全 5 回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
④保育園児と遊ぼう!	隣接する川島保育園と協働し、地域の未就園児と保護者を対象に、園の保育士と園児が遊びを通じての交流を深めます。	火曜日 (全 10 回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
⑤ムシ博士のカブト虫教室	H18年度から、毎年夏に行われているログハウスの恒例イベントです。講師がカブト虫・クワガタ虫の飼育方法を、子どもたちにわかりやすく教えます。カブト虫の飼育を通じ自然にふれあうことで、学校や塾では教えてくれない貴重な経験ができます。	土曜日 (全2回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
⑥親子リトミック教室	親子で音楽体験することによって、幼児の音感、リズム感、音楽的感性、表現力、創造力、集中力、記憶力を高めるなど、様々な心身的効果をもたらします。また、母親や友達と一緒に楽しみながら、協調性、自主性、積極性を身につけることができます。	7月 (1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
⑦プレイデー	こどもたちがワクワクする遊びや、身近な素材を使った工作など、季節に合わせたイベントを企画します。	土曜日 (全4回)

平成22年度こどもログハウス管理に関する業務の収支予算書

(単位:千円)

		内 訳	金 額
収入合計(A)		①+②+③=A	7,808
項 目	①委託予定額		7,458
	②利用料金収入		0
	③その他収入 自販機収入		350
支出合計(B)			7,808
項 目	人件費	スタッフ(12名)賃金、法定福利費	5,196
	事務費	旅費、消耗品費、会議賄費、印刷製本費、通信費、備品購入費、施設賠償責任保険、手数料、諸費	529
	事業費	自主事業費(青少年向け)	126
	管理費	修繕費、機械警備、害虫駆除、塵芥処理など	742
	ニーズ対応費	運営委員会や利用者のニーズにより執行	0
	事務経費	労務経費、消費税、研修費など	1,215
収支(A)-(B)			0

※ 1年間(12ヶ月)の収支を記入してください。

※ 各項目については、必要に応じて別紙にて説明資料を添付してください。

こどもログハウス 収支予算書 【様式6 説明】

(単位:千円)

項目	支出合計	(1)+(2)+(3)+(4)+(5)	7,808
人件費 (1)			5,196
時給職員			5,196
賃金	スタッフ(12人)		5,170
	労災保険料		26
法定福利費	通勤費		0
	健康診断料		0
事務費 (2)			529
旅費			7
消耗品費			225
印刷製本費			0
会議賄費			18
通信費			109
備品購入費			100
図書購入費			5
施設損害賠償責任保険			64
手数料			1
諸費			0
事業費 (3)			126
自主事業費			126
管理費			742
修繕費	小破修繕		150
害虫駆除	年2回		35
機械警備点検	常時		416
清掃業務	年4回		78
消防用設備点検	年1回 非常警報設備点検		8
その他	塵芥処理料		55
事務経費 (5)			1,215
労務経費			949
消費税			266
研修費			0